



# 校長室だより

R7.3.7.号

岐阜市立東長良中学校

## 令和6年度 卒業式 式辞

寒さも幾分和らぐこの良き日。ただ今卒業生の皆さんに卒業証書を授与いたしました。改めて、卒業おめでとうございます。保護者の皆様、本校での3年間で立派に成長されました。お子様のご卒業をお慶び申し上げますとともに、これまでのご理解とご協力にお礼申し上げます。また、ご来賓として、岐阜市議会議員 佐藤 幸大様はじめ、学校運営協議会ならびにPTA本部役員の皆様方にご出席賜り、心よりお礼申し上げます。

令和4年4月、東長良中に皆さんは入学しました。私もその年に赴任しましたが、二つの不安がありました。ひとつは新型コロナウイルス感染症の影響があるなか充実した中学校生活をおくらせてあげられるだろうか。もうひとつは、令和元年の悲しい出来事があって学校が重い荷物を背負って苦しんではいないだろうかということでした。しかし、皆さんは立派に成長しました。日頃の小集団による学び合い、生徒会や係活動、体育祭、文化祭や修学旅行などの学校行事。先輩からの財産を受け継ぎ、皆さんは新たに学年の枠を超えた縦割り活動という財産を残しました。ハーモニーフェスタでの学年合唱は皆の心を震わせ、下級生から憧れられる上級生となりました。皆さんの成長を心から嬉しく思います。

これまで、皆さんにいろいろな場面や節目に大切にしてほしいことを話してきました。「夢や目標を持つ」「自分で決める」「自分の良さを活かす」の3つです。実はこれらは、私の生い立ちが関係しています。私は1963年(昭和38年)7月4日に産まれました。本来なら9月に産まれる予定でしたが、早産で2か月早く1500gという極出生体重児でした。平均の約半分。今の医学ではともかく、約60年前では相当な早産でした。両親は医師から、名前が決まるまで生きられないかもしれない。2週間の命かもしれないと言われたそうです。その影響もあってか、幼いころはとても体が弱く、病弱な子どもでした。そんな私に、昨年11月に他界した父が体の丈夫な子どもにしようと野球を勧めました。また、いろいろな運動をさせたおかげで運動好きな子どもとなりました。中学生の頃は、自分の身の程はわかっていたので、プロ野球選手になろうとは思いませんでしたが、もっと良い選手になりたいと、自主練習をしていました。例えば、ランニング。自宅から長良橋の往復10kmや坂道ダッシュを一人でしていました。よい選手になりたいとの願いから、それらを苦しいとかつらいとか思ったことはありませんでした。なりたい自分があって、自分で決めたことだったからです。

そんな自分ですが、肘を故障して野球ができなくなりました。現在でもこのように、右肘は曲がりませんし、伸びなくて、腕の長さが左右違っています。失意の中、運動が好きだった私は、高校では肘に負担が少ない陸上部に転部することになりました。そこで中学校までのランニングが活かし

た。高校でも、自主練習に取り組み、おかげで短距離選手としてちょっとだけ活躍することができました。私は、運動をとおして成長でき、よい仲間と巡り合えることができました。その経験からずっと運動に携わっていきたいと体育教師になりました。そして、今こうして皆さんと出会い、卒業式をともにすることができました。夢や目標を持たなくても、自分で決めずに人に言われたことを普通にやっても、人は成長できます。しかし、人生の充実度は大きく変わるのではないかと実感しています。そんな気持ちを込めて、改めて、「夢や目標を持つ」「自分で決める」「自分の良さを活かす」この3つの言葉をおくります。

最後は、やはりこの言葉を送ります。「協・優・敬・恕」の4つの心。この4つの心を働かせることが、自分や周りの人の一人一人の居場所と幸せにつながることを学びました。本校での取組が皆さん一人一人の力になることが私たちの願いです。これからも東長良中学校卒業生として、座右の銘としていつまでも持ち続けてほしいです。きっと自分や周りの人たちの幸せにつながると思います。「協優敬恕」皆さんと私たちの合言葉を最後に、私の祝辞といたします。